

支えてくれた人にお礼を

こども未来賞入賞の榎田さん



受賞を喜ぶ榎田さん。小学校で障害について授業を行うなど、地元の子供たちともふれあっている

子育てにまつわる体験や思いをつづったエッセーを表彰する「第16回こども未来賞」(こども未来財団、読売新聞社主催)で、読売新聞社賞に選ばれた八王子市の地域包括支援センター相談員榎田美知子さん(55)に喜びの声を聞いた。

受賞作「車椅子からの子育て」は、車椅子生活を余儀なくされた榎田さんが、3人の娘を育ててきた思い出をつづったもの。昨夏、三女(20)が成人を迎えるのを機にまとめた。

榎田さんは19年前、自宅の階段を踏み外して脊髄を

損傷し、歩けなくなった。一時は病院のベッドで「死にたい」とまで思ったが、施設や専門家の助力を得て、家事をしたり看護師として働いたりして自立生活を続け、娘を育て上げた。

子育てが前向きに生きる力をくれたといい、受賞作には、娘が電話を奪い合うように声を聞かせてくれたり、幼かった次女(23)が榎田さんにチューリップを見せるため、車椅子が通るのに邪魔な石垣の石を金づちで砕いてくれたりしたエピソードをつづった。榎田さんは「娘や医療関係者など

支えてくれた人たちにお礼をしたい」と受賞を喜ぶ。

地域包括支援センターでは、高齢者の相談に乗っている。人それぞれ異なる悩みや原因をときほぐし、適切な専門家につなげるのが仕事だ。子育てを通じた体験を福祉の課題解決に生かしたいとの思いも強い。例えば、娘が代わる代わるベッドで添い寝してくれて心強かったことから、「介護ベッドは介護する側の都合に合わせた狭いものだけでなく、広いものも必要」と考えている。

仕事が面白いためか、最

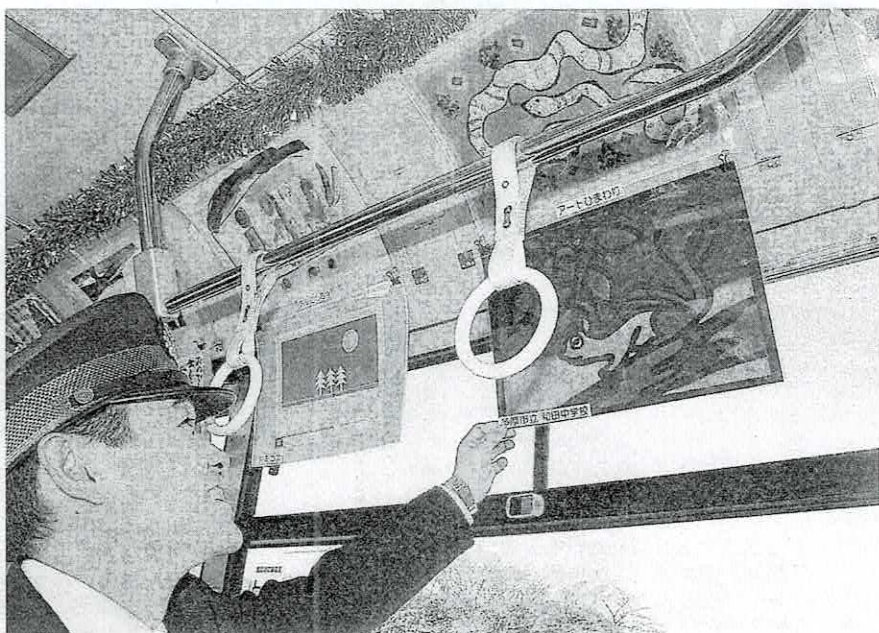
近、長女(26)から「生き生きしているね」と言われたと笑う。「まだまだ前向きに生きる姿を見せ、子供たちが悩んだら、いつでも帰ってこられるようにしたい」

大久保長安を学ぼう
来月八王子で講演会

八王子市の中心市街地の基礎を築いた江戸幕府の代官、大久保長安を紹介する講演会が2月17日、同市三崎町のホテル「マロウドイン八王子」で開催される。

3回連続講座の最終回で、講師は横浜都市発展記念館職員の前根勇二さん(日本近世史)。長安が関ヶ原の合戦後、徳川家康から戦略的要衝だった美濃国(岐阜県)や大和国(奈良県)の支配を任されていた時期の業績を紹介する。

長安の再評価に取り組み市民団体「大久保長安の会」が企画。午後2時。参加費500円。10日までに往復はがきで申し込む(先着150人)。問い合わせは、同会事務局(080・2248・8565)へ。



障害者の絵29点 京王バス車内に

京王バス南が運行するバスの車内に、障害者の描いた絵が展示されている。写真Ⅱ。「多摩市障がい者美術作品展」に応募した作品の中から、今年のエトの蛇や、ロンドン五輪柔道女子57kg級金メダリスト松031へ。

バスは、京王線聖蹟桜ヶ丘駅や多摩センター駅などを拠点に走り、日によってルートは変わる。3月末まで。ルートなどの問い合わせは、京王バス南・多摩営業所(042・357・0031)へ。